

みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～2018 WPS競技規則の改正、 クラス分けの見直し、東京2020実施種目～

▶はじめに

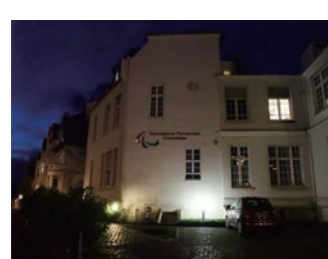
前回は、2018年に向けたWPSの動向や地震の影響で日程変更されて開催されたメキシコシティ2017WPS世界選手権について、お伝えしました。

今回は、2018年1月1日に改訂されたWPSの競技規則やクラス分けの見直し、東京2020パラリンピック競技大会の実施種目発表についてお伝えしたいと思います。

▶東京2020パラリンピックの水泳競技は…

東京2020パラリンピック競技大会で実施される新旧競技の入れ替えなど、パラリンピック大会全体の選手数や競技、その種目数など、全体の調整の結果、水泳や陸上競技の種目数が減っています。

種目数は146、内訳は男子種目76、女子種目67、混合種目3（これは2017年9月にすでに発表済み）で、リオ2016パラリンピック大会の152から6減ることになっていました。



IPC本部の理事会が行われたドイツ・ボンの夜景写真

2018年1月28日に東京2020大会でのメダルイベント（＝実施される予定の種目）がIPC理事会で決定され、一覧のとおり、実施される予定の種目が発表されました（表1）。

特徴的なのは、知的障がい混合リレー、視覚障がいの混合リレー、知的障がいの100mバタフライ（男子/女子）が追加されたこと、重度クラスの種目がリオに比べると増えたこと。一方で、全体をリオと比べて6種目減らさなければならないことから、クラスによっては、50m自由形または100m自由形のどちらかが実施されない点です。

2017年9月にすでに発表済みのパラ水泳競技の選手数は620（男子340、女子280）です。発表があるだろうと思われていた620の選手枠の配分方法などについては、今回は発表されませんでした。

▶2018年WPSルールの改正

2018年1月1日からWPS競技規則が改正されました。主な変更点の一つが、ルールエクセプションの変更です。

パラ水泳の場合、選手の障がいやその程度は多岐にわたります。障がいゆえに、できないことゆえに失格にならないように個々の選手に付与される記号をCoE（code of exception）と言います（日本語ではルールエクセプション、省略してエクセプションなどと言うことが多いです）。

このルールエクセプションについて、バタフライと平泳ぎについて、表2のように変更になりました。2018年はWPSでほぼすべての選手について再クラス分けが実施されますが、その際に新しいCoEが選手ごとに付与されることとなります。バタフライ、平泳ぎにおいてはそのCoEに従ってジャッジされていくこととなります。ですので、これまでバタフライを片腕ストロークで泳いでいた選手の中でも、今後は両腕ストロークで泳ぐことになる場合が出てきます。

表2 新CoE (Codes of Exception) 変更のみ抜粋

2	Breaststroke - One Hand Touch
3	Breaststroke - Simultaneous Intent to Touch
4	Butterfly - One Hand Touch
5	Butterfly - Simultaneous Intent to Touch

2および3は平泳ぎについて、「片腕ストロークで片手タッチ」なのか、「両腕ストロークで両腕タッチの意思を見せてのタッチなのか」（タッチそのものは片手でもよい）、4および5はバタフライについて、「片腕ストロークで片手タッチ」なのか、「両腕ストロークで両腕タッチの意思を見せてのタッチなのか」（タッチそのものは片手でもよい）、を示すものです。



バタフライはルールエクセプションが変更になるため、該当の選手は注意が必要になります

▶2018年クラス分けの見直し

WPSは2017年9月に、2018年にクラス分けの見直しを実施すると発表しました。2018年1月1日から、（現行のWPSクラス分け規則に）一部改正を加えた新版WPSクラス分け規則が有効となります。テクニカルアセスメント（いわゆるウォーターテスト）を変更したもので、肢体不自由（S1-S10）選手はこの変更に伴い、2018年1月1日をもってすべての選手がRステータスとなります（厳密に言えばR2018の選手を除いて）。また、知的障がい（S14）の選手についても、一部テストの変更があることから、2018年1月1日をもって、すべての選手がRステータスとなります。

Rステータス（Review Status）とは、国際クラス分けが実施される次の機会に必ずクラス分け受検しなければならない状態をいいます。つまり（ざっくりとえば）、2018年に、ほぼすべての選手を再度クラス分けする、ということだと言えます。

2018年のWPSライセンス登録の際に、医学的診断書等を提出し、（国際クラス分け併催の）国際大会でクラス分けを受検することになります（一部、WPSが認めた場合には、再クラス分

け受検不要なケースがあります）。

一気にすべての選手をクラス分けすることは、物理的に不可能ですので、2018年は時期によって再クラス分けの済んだ選手と再クラス分けがまだの選手が混在する状態で競技会が実施されていく状態となります。時期によっては、ランキング等の見方など留意が必要かもしれません。

各国、選手、WPS、クラスファイア、競技役員など大会運営関係者にとっては、とても大変な仕事となります。

現在のクラス分けシステムの原形は、1992年バルセロナ大会から導入されました。それから小さな修正等を加えながら現在に至り、最初の導入から四半世紀を過ぎています。オリンピックに比べると長い現役生活を送る選手も多いパラ水泳の世界で、中には10～15年以上も前にクラス分けされたケースもあるでしょう。また少しずつ加えられた修正は、修正後にクラス分けされた選手にのみ適用になっているケースもあります。そういった経緯から生じる違いなども含めて、ここで一度再クラス分けがなされることにはメリットもあると考えられます。一方でクラスが変更になるケースも出てくるでしょうから、ランキングへの影響など、各国は2018年を通じて国際の動向に注意しておく必要があると言えるでしょう。

2018年の主要な国際大会

昨年からはまったWPSワールドシリーズですが、2018年は6大会が開催されます。

1	2018年3月2～4日	コペンハーゲン（デンマーク）
2	2018年4月19～21日	インディアナポリス（米国）
3	2018年4月26～28日	サンパウロ（ブラジル）
4	2018年5月23～26日	リニャーノサッピアドーロ（イタリア）
5	2018年5月31～6月3日	シェフィールド（英国）
6	2018年6月7～10日	ベルリン（ドイツ）

各大会では競技会に先立って国際クラス分けが実施されます（それぞれ3日程程度）。

これらの他に、WPSヨーロッパパラ水泳選手権が8月にダブリン（アイルランド）で、パンパシパラ大会が8月にケアンズ（豪州）で、アジアパラ競技大会が10月にジャカルタ（インドネシア）で開催されます。

パンパシパラ大会以外は国際クラス分けが実施される予定です（視覚障がい、知的障がいについては国際クラス分け実施がない大会もあります）。

表1 東京2020大会で実施される予定の146種目

50m 自由形 S3 (男子)	400m 自由形 S11 (男子/女子)	50m バタフライ S5 (男子/女子)
50m 自由形 S4 (男子/女子)	400m 自由形 S13 (男子/女子)	50m バタフライ S6 (男子/女子)
50m 自由形 S5 (男子)	50m 背泳ぎ S1 (男子)	50m バタフライ S7 (男子/女子)
50m 自由形 S6 (女子)	50m 背泳ぎ S2 (男子/女子)	100m バタフライ S8 (男子/女子)
50m 自由形 S7 (男子)	50m 背泳ぎ S3 (男子/女子)	100m バタフライ S9 (男子/女子)
50m 自由形 S8 (女子)	50m 背泳ぎ S4 (男子/女子)	100m バタフライ S10 (男子/女子)
50m 自由形 S9 (男子)	50m 背泳ぎ S5 (男子/女子)	100m バタフライ S11 (男子)
50m 自由形 S10 (男子/女子)	100m 背泳ぎ S1 (男子)	100m バタフライ S12 (男子)
50m 自由形 S11 (男子/女子)	100m 背泳ぎ S2 (男子/女子)	100m バタフライ S13 (男子/女子)
50m 自由形 S13 (男子/女子)	100m 背泳ぎ S6 (男子/女子)	100m バタフライ S14 (男子/女子)
100m 自由形 S3 (女子)	100m 背泳ぎ S7 (男子/女子)	150m 個人メドレー SM3 (男子)
100m 自由形 S4 (男子)	100m 背泳ぎ S8 (男子/女子)	150m 個人メドレー SM4 (男子/女子)
100m 自由形 S5 (男子/女子)	100m 背泳ぎ S9 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM5 (女子)
100m 自由形 S6 (男子)	100m 背泳ぎ S10 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM6 (男子/女子)
100m 自由形 S7 (女子)	100m 背泳ぎ S11 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM7 (男子/女子)
100m 自由形 S8 (男子)	100m 背泳ぎ S12 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM8 (男子/女子)
100m 自由形 S9 (女子)	100m 背泳ぎ S13 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM9 (男子/女子)
100m 自由形 S10 (男子/女子)	100m 背泳ぎ S14 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM10 (男子/女子)
100m 自由形 S11 (女子)	50m 平泳ぎ SB2 (男子)	200m 個人メドレー SM11 (男子/女子)
100m 自由形 S12 (男子/女子)	50m 平泳ぎ SB3 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM13 (男子/女子)
200m 自由形 S2 (男子)	100m 平泳ぎ SB4 (男子/女子)	200m 個人メドレー SM14 (男子/女子)
200m 自由形 S3 (男子)	100m 平泳ぎ SB5 (男子/女子)	4x100m 34ポイント リレー (男子/女子)
200m 自由形 S4 (男子)	100m 平泳ぎ SB6 (男子/女子)	4x100m 34ポイント メドレーリレー (男子/女子)
200m 自由形 S5 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB7 (男子/女子)	4x50m 20ポイント リレー (混合)
200m 自由形 S14 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB8 (男子/女子)	4x100m S14 リレー (混合) *
400m 自由形 S6 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB9 (男子/女子)	4x100m 49ポイント リレー (混合) *
400m 自由形 S7 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB11 (男子/女子)	
400m 自由形 S8 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB12 (男子/女子)	
400m 自由形 S9 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB13 (男子/女子)	
400m 自由形 S10 (男子/女子)	100m 平泳ぎ SB14 (男子/女子)	

*暫定的な決定。これらのリレー種目が東京2020大会で実施されるかどうかについては、2019WPS世界選手権で実施の上、決定する。